

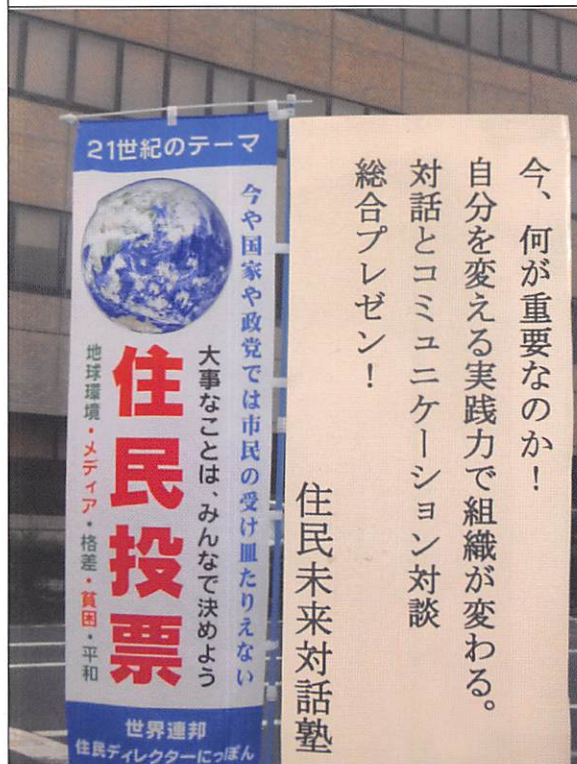
世界に平和を・人類に共生を



# 世界連邦

2014年5月 (No.98)

発行責任者 世界連邦運動協会松山支部  
支部長 窪田大作



次代支部長に着任するであろう桑島政治氏は全ての変革は住民運動から起きると主張している。世界連邦運動が結実し、世界連邦が実現して今の世界での諸問題、ウクライナ・シ



リア・パレスチナ・北朝鮮・開発途上国等で起きている流血騒動、環境及び国境問題が解決する制度設計の始まりが住民運動であり、その決定手段としての住民投票が大切だと述べる。地球市民の人権やそれを包む環境を醸成するものが世界連邦なのだか、オバマ大統領や安倍総理がその気にさせるには周りにいる住民がその気になることが一番であることを運動家は自覚したい。

## 3月30日にコムズで住民未来対話塾を開く

昨年度末に松山支部で初めての自由討論会をコムズ3階視聴覚室で開催しました。これまで、有志による演説はしてきましたが、何も新しい試みが出来なかった松山支部にとって生まれ変わった支部がスタート致しました。これからの支部がかつての隆盛時に戻るべく執行部と致しましては努力を続ける所存であります。

議論は世界のグローバル化を受け、エネルギー・食糧・環境問題に加え大規模な自然災害、増大し続ける種の絶滅や国境を越えたテロリズムと言った、人類が一度も遭遇したことのない地球規模の問題を抱え、翻って日本を見ても格差、人口減少、雇用不安、国際競争力の低下、財政危機を再認識することから始まった。

桑島政治氏は「今、何が重要なのか！会議の流れを変える自分を変える自身の実践力(対話とコミュニケーション対談・総合プレゼン！)をつけることで組織が変わる。今、松山から発信した住民運動は大阪でも広がり、世界に伝播しようとしています。又、愛媛には次ページで紹介する多くの平和を愛する人達が活動していました。」との発言に伴四国ブロック長は「高地にも平和に貢献した人達が居る。四国の人達を掘り起こして、改めて打ち出したい。」と発言した。第一回の集まりは大成功に終わったと言えよう。



こういう動きを重ね、全国の各支部に変革を促すことによって、世界連邦が実現するのではないかと希望が灯る。

愛媛で平和に貢献し、平和を語り活動した人々 (桑島政治氏提案)



新渡戸稲造  
水野広徳  
伊丹万作  
早坂 暁  
大江健三郎  
伊丹十三  
木村真三



愛媛には文化を通じて平和を発信した先人が数多くいますが、その代表格は上記六名です。新渡戸稲造は「武士道」を著し、全世界に日本を売出し、その才は台湾の植民統治にも顕れた。水野広徳は第一次世界大戦を二度自費で観戦に行き、戦争の悲惨さを知って非戦論者となる。日米開戦を大正時代から反対し、それを庶民に広めた。

伊丹万作は松山中卒業後画家から出発するも芽が出ず、映画監督の伊藤大輔の食客となりその脚本制作に身を転じる。独特の風刺の効いた作品を発表し、映画界随一の「知性派」として大監督に数えられた。伊丹十三は実子、大江健三郎は娘婿である。早坂暁は松山中から海軍兵学校に行き、その在学中に被爆直後の広島がおかれた惨状を見たことが小説の作風に著している。現在の内子町出身の大江健三郎は東京大学文学部でフランス文学を学び、サルトルに傾倒し多くの作品を書きノーベル文学賞を受賞。実子が知的障害や広島を数回訪れ、平和や人権に対する社会運動家としても有名。万作の子、伊丹十三は映画監督の父が持つ環境で育った為、マルチタレントとして芸能界で存在を高めた。映画「葬式」で映画監督デビュー。社会ものを手掛け、存在感を高めるも自殺し世を去る。

編集後記

事務局長を拝命して2年が経過しようとしています。その間、松山で国際大会をしたいと念じ、それが日本大会を松山でという動きになりました。

それが倫理法人会からの参加者呼び寄せの切欠になったと思う。

これからの松山支部が行う活動は、世界連邦実現へと大きく舵を切ると考える。そこには、立会演説も重要な位置を占めます。

それは何時の日にか、全国へ大輪の花を開かせる日が来ることが想定される。その先にある世界連邦が実現を夢見て活動を活性化していきたい。

会員の皆様も世界連邦実現が夢ではないことを認識して頂きたい。夢物語を言うのではなく、自己満足するのではなく、今ある地球の状態をよく認識したいものです。今の世界は自身の一国を考えているだけでは明日は語れません。

足立進一